

令和4年度 第1回 八代市立図書館協議会 会議録

日時 令和4年10月25日(火) 午前10時
場所 八代市立図書館 大集会室
出席委員 久保委員、宮嶋委員、橋野委員、桑原(伸)委員、桐委員、前山委員
欠席委員 桑原(直)委員、森下委員、徳田委員、市村委員
事務局 教育委員会：北岡教育長、橋口総括審議員兼部次長
生涯学習課：高崎課長、村上課長補佐、市村参事
市立図書館：野間口館長、吉野統括責任者、岩榮せんちょう分館長、木場かがみ分館長
公開状況 公開
傍聴者 0名

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 教育長挨拶
4. 自己紹介
5. 会長・副会長選出
6. 報告事項

(1) 図書館運営について

(事務局)

図書館の利用状況について

今年度は、昨年度と比較して入館者数・貸出人数・貸出冊数ともに130%~158%増加している。令和3年度は、コロナ禍の中で入館制限やイベントの中止・制限などがあった。令和4年度は、感染対策を行いつつ開館し、イベントを実施してきたことが増加につながったものと思われる。ただ、コロナ禍以前の来館者数約56万人、貸出者数11万人には届いていないのが現状である。

コロナ感染症対策をとりながら利用を増やしていくことを目標としている。

電子図書館について

八代市立図書館電子図書館では、令和4年9月現在11,126冊の図書を所蔵している。

電子図書館の特徴として、

- ・いつでもどこでも読書を楽しむことができる。
- ・問題集など紙の資料としては収集しにくい資料を借りることができる。
- ・紙資料では借りにくいセンシティブな内容の本を借りることができる。
- ・貸出中の本であっても試し読みすることができる。
- ・音声読み上げ機能付きの資料があるため、読書が困難な人でも読書を楽しむことができる。

以上が、電子図書館ならではの便利なところだと思われる。

コロナ禍での臨時休館や時間短縮で読書機会の提供に大きな影響があり、来館が難しい中、電子図書館における令和2年度の利用はコロナ禍前の3倍近く増加した。

また、令和3年度から学校で配布されているタブレットを利用した『八代市児童生徒におけるタブレット端末利用による電子図書サービス』が開始され、八代市の児童生徒約9千人が電子図書館を利用できるようになった。電子図書館では名作はもちろん図書館には所蔵のない問題集も豊富にあるので、普段図書館に興味を持ちにくいヤングアダルト世代の誘致にも有効と考えている。現在は、一般利用者に比べて児童生徒の利用が圧倒的に多い状況だ。

電子図書館の課題として、蔵書数約1万冊に対して、児童生徒の新規登録が約9千人と増えたため、予約過多となっており、人気本の中には100件以上の予約が入り、3年待ちというものもある。対策として、令和4年度はアクセス制限のない読み放題パックの導入を行った。1冊の図書を複数人が同時に読むことができるため、資料不足の解消につながった。児童に人気の高い「講談社青い鳥文庫」や「角川つばさ文庫」を始め、幅広い文学作品を集めた「青空文庫」がアクセス制限なく閲覧可能。電子図書館トップページには、『朝読におすすめ「読み放題」』バナーを貼り、PRを行っている。また令和4年度から、電子雑誌読み放題サービス「TRC-DL マガジン」を開始し、令和4年9月現在131タイトル読むことができる。一般向けの雑誌が多いが、児童向けの雑誌『ニュースがわかる』『鉄おも』などはとても人気があり、同時アクセスは20名まで可能。

また、前年度に引き続き補正予算で児童向けの資料約2千冊の入荷を予定している。大勢の人に読書を楽しんでもらえるよう、工夫していきたいと考えている。

図書館の取り組みについて

課題解決に取り組む利用者の効率を上げるため、最新情報が日々更新される商用データベース『熊本日日新聞』『レファコレ 児童文学ヤングアダルトサービス』を導入した。

『熊本日日新聞』は、1988年からの記事検索が可能。調べたい内容を検索すると、関連記事が一覧で読めるため便利である。『レファコレ 児童文学ヤングアダルトサービス』は、調べたい言葉を検索するとそれについて書かれた図書や雑誌、学術文献が表示されるため、利用者はもちろん、図書館スタッフも日々のレファレンスでも活用している。その他、地理を調べる『デジタル伊能図』、経営情報を調べられる『JRS』を設置している。

また、利用者から要望の高い雑誌について見直しを行った。本館は、昨年度に比べて11誌増え、54誌。せんちょう図書館は、5誌増え、30誌。かがみ図書館も5誌増え、37誌を所蔵している。利用者からの要望に加え、貸出の傾向を考えながら定期的に見直しを行いたい。

今年も『第6回 八代市立図書館を使った調べる学習コンクール』を開催した。八代市立図書館を利用し、子どもたちが自ら学び考え、課題を解決する力や生きる力を育むことを目的に開催。8月に『調べる学習おたすけ講座』を3館で開催し、テーマの決め方からまとめ方の説明を行った。今年もどのような作品があるのかとても楽しみにしている。

図書館まつりについて。こどもの読書週間である4月23日から5月12日に春の図書館まつり、秋の読書週間10月27日～11月9日に秋の図書館まつりを開催。秋の図書館祭りでは、すでに名物になっている『かがみマンガWeek』をかがみ図書館で開催する。新刊マンガ約500冊の貸

出やみんなのおすすめマンガの紹介、企画展示を行う。その他、ブックリサイクル、スタンプラリー、英語ブックフェア、朗読会や子ども映画会、工作教室、かがくあそび等のイベントを予定している。その他、図書館では図書館講座やおはなしの会を毎月行っている。現在、人数制限を設け、会場を広い場所に移す等コロナ感染症対策を行いながら、毎月工夫して行っている。

最後に、コロナ禍における図書館の感染症対策について、図書館では常日頃からコロナ感染症対策を行っている。借りた本を除菌できる除菌機はとても好評。また、学生の夏季休暇期間に学習スペースとして集会室を開放し、席の間引きによる席不足の解消に取り組んだ。安心して読書や勉強を行えるよう、これからもコロナ感染症対策を行いながら読書環境の整備に努めたい。

(委員)

電子図書館の利用が増加傾向にあるということだが、比較して図書館の利用はどのようになっているか。

(事務局)

図書館の貸出冊数等、去年より増加している。電子図書館を見て、図書館にも来てみようと思ってくれたのかもしれない。学生など学習で図書館を利用する世代が、勉強のついでにちょっと本を読んでみようかなと思うきっかけ作りになっている。

(委員)

調べる学習コンクールについて、選ばれた作品、コンクールの結果など市民にはどのようにお知らせしていく予定か。

(事務局)

調べる学習コンクールで集まった作品を選評し、優秀作品については、全国の調べる学習コンクールに出展を考えている。例年、受賞者はもちろん学校関係者、マスコミに声を掛け、授賞式を開催している。その際は、受賞された作品と調べる学習に役立つ本を展示し、来館者へ公開している。

(委員)

『レファコレ 児童文学ヤングアダルトサービス』とは何か。

(事務局)

館内パソコンよりアクセスできる有料データベースのことで、例えば「松谷みよ子」等、作家名を打ち込めば、著作だけでなく「松谷みよ子」について記述のある雑誌や学術文献についても調べることができる。

(委員)

それは、どの図書館のパソコンからアクセスできるか

(事務局)

本館のデータベース用パソコンのみ

(委員)

電子図書について、音声再生可能なオーディオブック等の利用はあるのか。

(事務局)

もともと朗読機能が付いている資料の他、読み上げ機能が付いているものもある。その他、背景

の色や文字の大きさを変えることができるので、紙の本では難しい様々な読みづらさに対応できている。

(2) 利用者アンケートについて

(事務局)

調査期間は、今年の5月1日～8月7日の約3カ月間。(本館の) サンプル数は469名。昨年とコロナ禍前と比較して、変化のあった所のみをご報告します。

まず、年齢について、コロナ禍前は、40代～60代の利用が多かったが、現在では、60代～70代の利用が多くなっている。就労している年代が減っているため、おそらく、仕事の影響などからか、不特定多数の方が来館する図書館の利用を控えているのではないかと推測している。

次に、職業について、コロナ禍前は、就労している方が6割近く来ていたが、現在では会社員・公務員・パートアルバイトの合計が35%、3割ぐらいになっている。ここがかなり減っているところである。

次に、来館する際の交通手段については、やはり一番多いのが、自家用車・バイクであり6割以上、半数以上の方が車で図書館に来ているものの、後ほど紹介するが駐車場の狭さについての意見が多い。

滞在時間については、7割が1時間未満という結果になっているが、裏を返すと3割が1時間以上滞在しており、本館では図書館でゆっくり過ごす人がいるのかなという結果です。

電子図書館については、昨年と比較して、増えているのが、「知っているが利用したことがない」。やはり、啓発が必要であると考えます。

利用したい図書については、昨年度に比べて、「はい」と答えた人が1割近く増えている。電子書籍関連で所蔵が増えたのも影響しているのではと思う。

今後充実してほしいサービスについては、一番多かったのが、図書資料の充実。次に講座や催し物の充実があり、利用者は講座やイベントに参加したいと思っているのではと思う。

その他の意見については、駐車場の他、学習スペースを増やして欲しいという意見や洋書を増やして欲しいとの意見もある。

図書館の満足度については、7割以上の方に満足頂いている。また、昨年度から項目に『普通』という項目を追加しているが、これがなければ本館分館ともに『満足』が9割を超える。指定管理に代わってから接遇関係で本当に良くしていただいているので、そこが関係しているのではと思う。

その他については、顕著にでているのが、「学習スペースを増やして欲しい」という意見と宇城市の図書館にもあるような、飲食スペースやテラス席を希望する声があった。

職員については、接遇の評価は高いという結果であった。

分館について

年齢層については、コロナ禍前と変わらない利用状況だった。

職業については、就業している人の割合が1割程度減っている。

利用頻度については、コロナ禍前は、「週に2、3回」が3割近くいたが、現在では1割にも満たない。一番多いのは「月に2、3回」となっている。

滞在時間については、9割が1時間未満と回答していることから、短時間の利用が多いということが分かる。1時間以上の滞在は1割となっている。

電子図書館については、「利用している」と回答した人が22%であり、これは昨年度の18%より増えている。また、電子図書館を知っている人の割合が8割近いことから年々認知度は上がっているといえる。

移動図書館については、利用している人が増えているが、せんちょうとかがみについては、移動図書館の運行はしていない。このことから、旧市外の方が分館の利用をしているのではないかとと思われる。

今後、より充実してほしいサービスについては、本館と同じく図書資料の充実と講座やイベントの充実を希望する声が多い。

その他の意見・要望については、本館同様、飲食スペースを希望する声のほか、せんちょう分館については雑誌を増やして欲しいとの要望がある。また、職員についても本館同様で非常にいい意見をいただいている。

(委員)

他の図書館では飲み物等を取り入れていこうというのはあるのか。

(事務局)

不知火図書館をはじめ、館内でお茶のできる図書館は増えてきているようだ。八代市においても市民が図書館を利用する上で、ゆっくり本が読めるような場所は作りたいと思っている。今後検討していきたい。

(委員)

書店でも、本だけを置いている所もちろんあるが、喫茶店と一緒にやっているところは全国的に増えている。揃えている本も経営者の個性が垣間見えて興味深い。図書館でも喫茶コーナーなどができたとしたら楽しみだ。

(事務局)

従来の図書館は、勉強するところ、本を読むところであり、静かにしなければいけないという固定概念があった。しかし、最近増えている図書館を見ると、子どもたちがはしゃぎながら本を読んだり、静かに勉強できたりと、スペースがきちんと分けられており、住み分けができています。もともとの造りによるところも多いため、現在の建物で工夫しなければならないとは思いますが、建物が適した形であれば利用の幅も広がるのではないかと思います。

(委員)

不知火の図書館へ孫を連れていくことが多い。(不知火図書館には)絵本だけの建物があるため、若い人たちがゆっくりとそこで過ごせる雰囲気があってとてもいいと思う。だから八代にもそういう場所や図書館があればと思う。

(委員)

学習スペースについて、2階も使えるのか

(事務局)

去年から学生の夏季休暇中は、大集会室や中集会室を開放している。

(委員)

ここは改築などの話は出ていないのか

(事務局)

本館は築40年程。改築をという市民の声はあるが、現段階では改築や新しく建てる予定はない。ただ、サービスの内容を充実させることで、市民の集まる場所にしたいと考えている。

(委員)

関連して、(本館の)建物の耐震構造はできているのか

(事務局)

(耐震構造)はできており、先の地震でもびくともしなかった。壁面等もタイルが落ちないように、耐震の改修を行っている。

(委員)

講座やイベントを増やして欲しいとの意見があるが、どのような行事をしているのか

(事務局)

毎月行っている「図書館講座」では、郷土の講師による講座をはじめ、プラネタリウムやプログラミング講座などを行っている。また、図書館シネマも毎月行っている。毎月行っているのは大人向けだが、年に2回子ども向けの映画会も開催。その他、昨年度はせんちょう分館にて、せんちょうマルシェを開催。コロナ禍前に行われた図書館マルシェでは、本を借りるだけでなく、ゲームをしたり、コーヒーを飲みながら本を読んだりできるイベントを行った。

(委員)

意見の中に、駐車場に関するものがたくさんあったが、それについてはなにか対応を考えているか

(事務局)

市民の皆様から駐車場について、狭さを指摘するものが多くあったが、現状、駐車場を拡充していくにはスペースの関係上難しい。その代わりではないが、図書館隣の敷地については、図書館の利用者も使えるようになっている。駐車場問題については、市としても大きな問題としてとらえている。

(委員)

アンケートでは様々な意見が寄せられているが、それに対する一つ一つの答えというのは出しているのか。

(事務局)

昨年に関していえば、「マンガを置いて欲しい」という要望に対し、かがみ分館にマンガを置くなどの対応をしている。また、電子図書館の資料充実にも取り組んでいる。

(委員)

コロナが始まる前は、事業所の方でもよく図書館を利用させてもらっていた。しかし、コロナが始まった頃に、閉館が続きなかなか利用できない状況が続いた。また、いつから開館再開となるのかはっきりと把握できなかった。もし、今後コロナの感染が拡大した場合、以前のように利用を控えるようになったり休館したりすることもあるのか。

(事務局)

他の施設と合わせて開館する・しないは判断したいが、除菌機や自動貸出機などを活用しながら、できるだけ図書館の方は開館していきたいと考えている。

(委員)

コロナが始まったころ、図書館や公民館が休館になったため、そういったことが、またあるのかを伺いたかった。

(事務局)

図書館など市の施設を閉めることについては、メールでお知らせしているのですが、そこを確認して頂ければ、図書館だけでなく体育館などを閉める情報も知っていただけると思う。

また、閉めることについては、県が関わっているため、あくまで個人の見解になるが、コロナが始まった当初と現在では状況が変わってきているように思われる。たとえば、コロナが始まった当初は感染者が一人でもいればすぐ閉める、全部閉めてという対応だった。しかし、現在市民の皆様のご認識も変わってきている。ただ、今後考えられない状況がないとは限らない。その際、館を閉めるべきなのか、あるいは制限をかけながら開館するかということについては、県の意向や近隣の市町村の情報を得ながら検討して市全体のこととして判断し、お知らせしたいと思しますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

(3) IC タグについて

(事務局)

IC タグの導入については、協議会で何度も議題に上がってきたが、補正予算の議決が通ったため、現在導入準備作業を行っている。

本日は、その概要について報告したい。

まず、IC タグの導入は本館のみ。開架の約 10 万 2 千冊に IC チップを貼る。11 月からスタートし、来年の 3 月までに貼り替える作業を完了させたい。

また、IC タグの導入によってどういうことができるのか

- ・セルフ貸出機による貸出時間の短縮
- ・電子化によるスタッフの業務改善
- ・セキュリティーゲートによる不明本の抑止

その効果については、対面手続きをなくしセルフ貸出による感染対策の他、書籍などの持出・返却の徹底が期待される。また、大きく二つのサービスを充実させたい。

まず、さらなる感染対策を行って利用者の安心安全を確保したい。(利用者数について) コロナ禍前は約 56 万人だったが、今 4 割減のままである。昨年より来館者数は増えているが、コロナ禍前よりはやはり減っている。そこでさらなる感染対策を行うことで、利用者の方々に、安心して利用いただける図書館に生まれ変わるということを、今後、しっかり啓発していきたい。

また、図書館業務のデジタル化で業務改善につながるため、コンシェルジュ、総合カウンターを設置し、利用者のサービスの充実を図り、おはなし会や企画イベントの充実を図っていきたいと思っている。導入経費については、2,300 万、すべてコロナ感染対策臨時交付金を充てている。

(委員)

今回は、不明本が議題に上がっていた。この問題がひとつ前進したと思う。

(委員)

この IC タグについては、せんちょう分館とかがみ分館も導入するか？

(事務局)

検討したが、冊数と期間の問題があり今回は見送る形となった。費用も掛かってしまうため、まずは、本館で導入し状況をみたい。分館については図書システムの更新に合わせて導入をするか検討したい。

7. 議事

(1) 移動図書館について

(事務局)

廃止を含めて効果検証を行った結果

- ・ステーションの廃止と新規ステーションの設置を行った。

利用の少ないステーションを廃止し、人の集まる場所に新規ステーションを設置。

- ・ステーションの滞在時間の延長

20分で2,000冊の中から借りる本を選ぶのは難しいとの意見があり、40分に延長した。

結果、利用者数・貸出冊数は微増した。山間地や何らかの理由でどうしても図書館に行けない方もいるため、すべての市民に公平なサービスを提供するためには、移動図書館「ともだち号」は継続する必要があると思われる。

移動図書館の課題

- ・利用者が固定
- ・ともだち号の老朽化による維持管理費が大きい
- ・車体が大きいため、運行ルートが限られる

課題解決のため

- ・宝くじ助成金を利用し、新しい移動図書館車を購入。
- ・その際、現在の2t車両を、1t車両に変更したい。

以上を踏まえ、2点、委員の皆様にお伺いしたい。

- ・移動図書館を継続して運行してもよいか。
- ・助成金を活用し、機能性の向上を目的として、小型化した移動図書館を購入してもいいか。

(委員)

皆様いかがでしょうか。2点あるが、機能性は考えないといけない。

(委員)

機能性という面ではたしかに必要だと思われる。

(事務局)

現在、移動図書館は1日に平均78冊しか借りられない。にもかかわらず、2,000冊常備している。

これは、過剰なサービスではないかと思われる。子供たちは、移動図書館車を非常に喜んでいるが、冊数を減らしても対応可能ではないかと考える。また、(各地で)色々なイベントをしているが、そのようなイベントなどに出向いて、移動図書館を開館し、本と触れ合う新たな機会を作ることも考えていきたい。

(委員)

事務局の意見に1、2とも賛成だ。最近では、キッチンカーを使ってのイベントみたいなのがある。その一角に移動図書館車があるのは楽しそうだと思う。

(委員)

出ていく場所を増やすためにも機能性は必要だ。

(委員)

これは長い間抱えてきた課題だと思うので、意義はないということでもよろしいか。

※反対の意見はなし

(委員)

告知の仕方についてはどのように考えているか

(事務局)

他所の事例を見ると、移動図書館車の愛称や車体のラッピングを市民から募集している所もあるようだ。いずれにしろ、まずは助成金を通らなければできないので、今年度は申請を出すようにしたい。上手くいけば来年度6月議会に計上し、令和6年に運行となるかと思うが、延びれば令和7年、8年になると思われる。

8. その他

(委員)

その他についてなにかありませんか？

(委員)

要覧の26ページの利用状況について。新規登録者数が、60%とあるが、類似都市と比較してこの数字はどうなのか。また、登録者はどのような年齢や職業が多いのだろうか。分かる範囲でいいので教えていただきたい。

(事務局)

登録率が60%というのは比較的良いほうである。令和3年度に大幅に増えたのは、児童生徒の1万人近い登録があったことが大きい。年齢については子どもが家族と一緒に作ることが多い。また、高齢者の利用も目立つ状況である。

9. 閉会